

令和7年度 清原中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

- (1) 基本目標
- ①活力ある生徒 ②よく考え、創造する生徒
- ③豊かな心を持ち、思いやりのある生徒 ④たくましく未来を切り拓く生徒
- (2) 具体目標（具体的な生徒像など）
- ①頑張る人 ②考える人 ③思いやりのある人 ④挑戦する人

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

豊かな心と健やかな身体をもち、社会の変化に主体的に関われる能力や創造力を培い、自らの向上とより良い社会の発展を目指し、国際社会に生きる人間性豊かでたくましく生きる生徒を育成する。

3 学校経営の方針

- (1) 教職員の和を基調とし、「教師が変われば、生徒も変わる」を信条に、師弟同行の実践を踏まえ、「生徒を前面に出し、見守り・見届ける」生徒指導・支援の充実を図り、望ましい人間関係の育成に努める。
- (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り、考え、表現する学び合い活動や焦点化した振り返り活動を取り入れるなど、生徒一人一人の確かな学力の向上に努める。
- (3) 緑に恵まれた「清原の杜」の環境を活かし、思いやりや助け合う心を育て、特色ある学校づくりに努める。
- (4) 生徒理解を基盤に、道德教育・人権教育・発達段階に応じた教育相談の充実と各教科、総合的な学習の時間、特別活動等の特質に応じた指導の深化を図り、生徒の活力や豊かな人間性・社会性の育成に努める。
- (5) 一人一人の生徒が自己の特性について理解を深め、進路に関する情報を収集・活用し自らの生き方を探求するとともに、進路の選択・決定ができるよう、学校、家庭及び地域社会との連携を密にしながら、指導・支援に努める。
- (6) さくら連絡網や学校ホームページを効果的に活用し、積極的な情報発信に努める。家庭や地域社会等との連携を一層深めるとともに、地域から信頼される開かれた学校づくりを推進する。
- (7) 教育公務員としての服務規律の厳正やコンプライアンスの徹底に努める。
- (8) 教職員の働き方改革の推進に向けて、同僚性を高め、生徒と向き合う時間の確保及び就労時間の削減のために、日課の工夫やICTを活用した業務の効率化や勤務時間の適正化を図る。

【清原地域学校園教育ビジョン】

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成
～人や地域との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

本校教育目標を達成するため、地域や学校の実態及び生徒の心身の発達の段階と特性等を十分考慮し、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成が図れるよう各教科等の指導内容、指導形態、時数等の相互の関連を考慮し、教育課程を編成する。その際、学力の基礎・基本の定着、心の教育、健康安全の確保、地域とともにある学校づくりに留意する。

5 今年度の重点目標 ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【 学校運営 】 ～職場は明るく楽しく 仕事は厳しく誠実に～（職場の和を大切に）
- ・笑顔と活力ある生徒の育成を目指した「笑顔と活力ある学校づくり」の推進
 - ・「社会に開かれた教育課程」の理念に基づいた「地域とともにある学校づくり」の推進
 - ・ゆとりをもった計画立案、共通理解や教育活動の精選による生徒と向き合う時間の確保及び就労時間の削減
- 《学校スローガン 『GO ALL OUT ～一生懸命はかっこいい～』》
- 【 学習指導 】
- ・基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な定着、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成
 - ・宇都宮モデル（はっきり、じっくり、すっきり）やICT（1人1台端末を含む）を効果的に活用した授業の質的向上の推進
 - ・学習活動に自主的・主体的に取り組み、他者との対話を通して、自らの学びを深めることができる生徒の育成
- 【 生徒指導 】
- ・人権尊重を大切にした「生徒を前面に出し、見守り・見届ける」生徒指導・支援の充実（努力を）認めて→（達成状況を）褒めて→（次に向けて）励ましての実践＝自己肯定感や自己有用感の向上
 - ・規範意識を高め、思いやりをもち、認め合い、助け合いながら良好な人間関係を築ける生徒の育成
- ふわふわ言葉（やさしい言葉）の推進・ちくちく言葉（人を傷つける言葉）の禁止
- 【 健康（体力・保健・食育・安全） 】
- ・自らの命を守り抜くための危機予測・回避能力の育成（安全教育・防災教育・交通安全指導の充実）
- 健康教育及び安全教育を推進することによる、心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
- ・感染症予防の徹底と望ましい食習慣の定着（食に関する指導の充実と自己管理能力の育成）

6 自己評価（評価項目のAは市共通，Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には，A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止，を自己評価時に記入する。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1－（１） 確かな学力を育む教育の推進	A 1 生徒は，他者と協力したり，必要な情報を集めたりして考えるなど，主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90％以上	①授業において「本時の目標」「振り返り」を徹底し，生徒にとって本時の授業の内容が把握しやすいようにする。 ②ICTの特長である意見の共有や対比を通して考えを深めさせる。 ③授業中は，教師の指示や説明を集中して聞くようにさせるとともに，落ち着いた学習環境作りに努める。 ④グループで話し合う場面や発表する場面を意図的・計画的に設定し，主体的に学習に取り組むようにさせる。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
1－（２） 豊かな心を育む教育の推進	○A 2 生徒は，思いやりの心をもっている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90％以上	①道徳科の授業で思いやりについて考えさせ，日常生活において思いやりの心を態度で示す道徳実践力を育む。 ②全教職員は，日常的に生徒の言動に気を配り，ふわふわ言葉（やさしい言葉）の推進をし，ちくちく言葉（人を傷つける言葉）の禁止を徹底する。 ③給食活動や清掃活動などの当番活動や係活動において，互いの役割を尊重する意識を高める。 ④生徒の活動をしっかりと観察し，思いやりあふれる行動を日常的に称賛する。 ⑤学校行事後は，統一した振り返りシートを活用し，思いやりの心の大切さや意義に気付くとともに，お互いに認め合えるようにする。 ⑥保護者や地域住民にも，学校ホームページを活用し，思いやりある行動を広報する。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
	A 3 生徒は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90％以上	①学級活動では，様々な職業の社会的役割や意義を理解させ，自己の生き方を考える指導を取り入れ，学習の意義や価値を考えさせたり，将来設計を行ったりできるように指導する。 ②将来の目標に近づくための進路実現を目指して，計画的なテスト前学習に取り組ませ，テスト後の結果の振り返りに，粘り強く取り組ませる。 ③「生徒が前面に出る」ために，関わる教職員は成功体験させるための入念な準備を行い，“黒子”に徹することで，「見守り・見届ける」指導の充実を図る。	A	【達成状況】 【次年度の方針】
1－（３） 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	○A 4 生徒は，健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90％以上	①保健だよりや給食だよりを定期的に発行し，生徒や保護者へ健康や食事の重要性について啓発を行う。 ②朝食や給食を残さず食べること，歯磨きに関する強化週間を設け，委員会等でも呼びかけを行うことで，健康や食生活に対する意識を高める。 ③安全教育の充実を図るとともに，実技や実験，実習作業を伴う授業においては，生徒自身の危機予測や危機回避などの資質・能力を高めるよう，安全に配慮する指導を徹底する。 ④年間を通して常時換気を行い，エアコンを適切に使用しながら，夏季に熱中症計を設置したり，冬季には加湿器を設置したりして，熱中症や感染症の予防に努める。 ⑤避難訓練を年2回行い，注意すべき点や安全に関する講話をすることで，災害安全や防災に対する関心を高め知識を身に付けさせる。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
1－（４） 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 生徒は，自分のよさや成長を実感し，協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答85％以上	①学級活動や道徳で，自己を見つめ，自分が社会のためにできることは何か考えさせ，未来を担う社会人を目指して，夢や目標をもつことの大切さを理解させる。 ②地域の貢献や社会奉仕の意義を理解させ，ボランティア活動や地域行事に進んで参加できる態度を育てる。 ③地域未来会議や宇都宮学の授業などを通して，社会に参画し，地域の発展に貢献しようとする態度を育てる。	B	【達成状況】 【次年度の方針】

2 - (1) グローバル社会 に主体的に向き 合い、郷土愛を 醸成する教育の 推進	A 6 生徒は、英語を使ってコミュニ ケーションしている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答 85 % 以上	①英語の授業で A L T や T 2 との活動の際、small talk を使って英語でコミュニケーションをとる場を計画的 に設定する。 ②英語の授業で、教員が発する英語の指示に生徒が英 語で反応する学習の場面を多く設定する。 ③「A L T とコミュニケーション週間」を年に 3 回設 定し、英語を積極的に使う機会を設ける。	A	【達成状況】 【次年度の方針】
	A 7 生徒は、宇都宮の良さを知っ ている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答 80 % 以上	①各教科で地域の良さや学校の良さに触れる題材や学 習場面を設定し、郷土に目を向けさせることで、宇都 宮の良さに気付くようさせる。 ②「総合的な学習の時間」での「宇都宮学」におい て、宇都宮の良さを学ぶ探究活動の充実を図る。 ③学校給食では、郷土食や宮っ子ランチを教材にし て、宇都宮の歴史や文化について考えさせ、郷土への 愛情と誇りをもたせる。 ④「宇都宮学」の学習の様子をホームページや「学年 だより」で発信したり、保護者会等で生徒が発表し たりする場を設定する。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
2 - (2) 情報社会と科学 技術の進展に対 応した教育の推 進	A 8 生徒は、デジタル機器や図書 等を学習に活用している。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答 85 % 以上	① I C T 教育チームを中心に、I C T 支援員を有効活 用し、校内の I C T 教育の体制を整え、教員の I C T 活用指導能力を高めていく。 ②教員は、各教科で少なくとも 1 回は図書室を活用し た授業を行う。 ③年度当初、タブレットの正しい活用の仕方を生徒に 指導する。 ④年度当初、1 年生を対象とした図書館使用のガイダ ンスを実施する。(国語科との連携)	A	【達成状況】 【次年度の方針】
2 - (3) 持続可能な社会 の実現に向けた 担い手を育む教 育の推進	A 9 生徒は、「持続可能な社会」 について、関心をもっている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答 80 % 以上	①「持続可能な社会」を目指すための目標(SDGs)につ いての掲示物やスライドを作成し、生徒に啓発する。 ②教室にプラスチックごみ箱、リサイクルボックスを 設置し、持続可能な社会の実現に向けた行動に関心を 高め、実行につなげる。 ③緑化委員会による学校敷地内の花壇の整備や松のこ も巻き活動を通して、校内の緑化活動を推進する。 ④避難訓練を年 2 回行い、事後指導では、生徒全員の 状況を丁寧に把握し、災害安全や防災に対する関心を 高めさせる。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
3 - (1) インクルーシブ 教育システムの 充実に向けた特 別支援教育の推 進	A10 教職員は、特別な支援を必要 とする生徒の実態に応じて、適切な 支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 95 % 以上	①教育相談・特別支援教育部会において、生徒の状況 についての情報を継続的に共有していくとともに、関 係する学年・教職員との連携を図る。 ②特別な支援を必要とする生徒について、学校生活で 配慮が必要な生徒に関して、校内でケース会議を開催 し、チームで支援する方法を考える。 ③かがやきルームや教育支援教室の適正な運用を図 る。 ④特別支援教育コーディネーターと S C M を中心に、 特別な支援を必要とする生徒や配慮を要する生徒への 対応方法に関する校内研修を行う。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
3 - (2) いじめ・不登校 対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されな い行為であることを指導している。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答 95 % 以上	①学級担任は、いじめを絶対に許さない毅然とした姿 勢で学級経営を行うとともに、「個性」について考 え、人との違いをより深く考えさせる場を道徳や学級 活動等で設定する。 ○②全教職員は、日常的に生徒の言動に気を配り、ふ わふわ言葉(やさしい言葉)の推進をし、ちくちく言 葉(人を傷つける言葉)の禁止を徹底する。 ③いじめアンケートや WEB Q U 検査の結果、日常の観 察から、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に努 める。問題行動に対しては見過ごさずにその場で指導 する。 ④保護者会や学校・学年・生徒指導だより・H P など で、いじめの未然防止について取り上げ、いじめ根絶 に向けた本校の取組を発信する。 ⑤いじめゼロ強調月間には、特別の教科道徳の授業で いじめに関連する授業を全学級が実践し、いじめが許 されない行為であることを指導し、未然防止に向けて 考えさせる。また、全学級でいじめ根絶集会を行い、 いじめ根絶につなげていく。	B	【達成状況】 【次年度の方針】

3 - (2) いじめ・不登校 対策の充実	A12 教職員は、不登校を生まない 学級経営を行っている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 100%	①学級担任は、係活動や当番活動、授業中の発表などで生徒一人一人の取組の良さを見出し称賛することで、生徒にとって居がいのある学校生活となるような学級経営を行う。 ②教職員同士で生徒の望ましい言動を伝え合い、生徒の自己肯定感を高めることで、学校全体として生徒を見守り、見届ける指導をする。 ③保護者へ連絡をする機会に、生徒の良い点を意図的に伝えるようにする。 ④学級担任が学級の問題や課題を一人で抱えこまず、学年や全体で情報を共有し、組織的に対応策を考え取り組めるようにする。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
3 - (3) 外国人児童生徒 等への適応支援 の充実 3 - (4) 多様な教育的 ニーズへの対応 の強化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答 90%以上	①学校生活全般において教職員が意図的・計画的に生徒の頑張りと良さを認め、励まし、称賛する教育の推進を心がけ、生徒が自己有用感を実感できるようにする。 ②教職員一人一人が自信をもって自分の業務に取り組み、生徒と関わることで、学校全体が明るい雰囲気になるように努める。 ③生徒会活動をより活性化し、教師主導でなく、生徒の自発的な活動を伸ばすようにし、生徒が前面に出るよう、見守り助ける指導にあたる。 ④学年主任は、学年の生徒たちが生き生きと活躍できる明るい雰囲気となるよう、各学年の諸活動を推進し、自分の学校に誇りをもてるようにする。 ⑤教職員は、業務を一人で抱えこむことなく、協働することで活性化を図る。業務を効率化させ、まずは教職員が活気に溢れ、明るくいいきとした雰囲気になる。	A	【達成状況】 【次年度の方針】
4 - (1) 教職員の資質・ 能力の向上	A14 分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答 90%以上	①主体的・対話的で深い学びに向けた指導の充実を図り、宇都宮モデル「はっきり！じっくり！すっきり！」の授業展開を目指す。「今日のめあて」を適切に提示して学習に見通しをもたせ、「振り返り」の時間の確保を徹底することで、学習の達成感をもたせ、分かる授業につなげる。 ②ペアやグループ学習を取り入れた対話的な活動や ICT の活用や教材・教具を工夫するなど視覚的な活動を通して、個に応じたきめ細かな指導を図る。 ③テスト前に補習形式の質問教室を充実させ、個別の指導にあたる。 ④テスト前にAIドリルの積極的活用を図り、意欲的に学習に臨ませる。 ⑤指導と評価の一体化を図りながら生徒の学習状況を把握することで、「努力を要する」生徒に対して適切な支援を行う。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
4 - (2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①学校行事や諸活動では、目的や方法の共通理解を丁寧に行うことで、教職員全員が協力して業務に取り組む。 ②担当者による報告・連絡・相談を徹底し、必要に応じて全体への周知を図る。また、諸活動の実施後は取組の検証を行い、改善策を次に生かすことで、チームとしての質の向上を図る。 ③生徒理解や配慮を要する生徒の適切な対応には、SCMを中心にSC、校内教育センター支援員、学年や学級担任との連携を密にし、全職員で情報共有や協力した取組を行う。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
4 - (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 70%以上	①出退勤記録の入力や適切なリフレッシュデーの設定により、勤務時間の意識化を図る。 ②諸会議録や連絡事項、学年・教科間で共有できる電子データを活用して業務の効率化を行う。 ③定期的にアンケートなどを実施し、業務改善を図る。また、校務運営委員会や学年主任会、職員会議を活用して、学校行事の円滑な運営や計画的な学年経営を行う。 ④部活動顧問を複数配置し、ローテーションで指導にあたる。	A	【達成状況】 【次年度の方針】

5 - (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	○A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答90%以上	①公開授業、小中情報交換会（オンラインでも開催）、児童生徒指導強化連絡会、学校園あいさつ運動、学校園共通お弁当の日、小学6年生の中学校訪問など、小中の連携を図り、取組の充実を図る。 ②地域学校園教職員研修の授業研究を行い、その指導法や成果等を共有し教科指導力向上を目指し、次年度に向けた課題の洗い出しをする。 ③学校ホームページや学校だより、「地域協議会だより」や「清原地域学校園だより」において、小中一貫教育や地域学校園の活動の様子を保護者や地域に周知する。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
5 - (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5 - (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒教職員、保護者の肯定的回答90%以上	①清原中学校地域協議会の協力を得て、図書館等のボランティア、家庭科ミシンボランティアや校内環境整備活動等を展開しながら学校運営の充実を図る。 ②各学年のクリーン活動やとびやま城址跡公園ボランティア清掃、学校敷地内の緑化環境整備をPTAや地域と協力して行い、運営の充実を図る。 ③下校指導をPTAや地域協議会と連携して実施し、生徒の安全確保の協力を得る。 ④「地域未来会議」を12月に実施し、清原地域の未来について生徒と地域、行政機関と協議する場での話し合いを通して、郷土を愛し地域の未来を創造しようとする生徒の育成に努める。 ⑤地域の教育力を生かした特色ある活動を学校だよりやHPなどで、積極的に情報発信する。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
6 - (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答100%	①毎月1回の安全点検を丁寧に行い、危険箇所の早期発見を心がけ、早期対応を図る。 ②来校者をチェックし、名札の着用を求めるとともに、校門を登下校時以外は閉めておく。 ③台風や地震、落雷、降雪などの災害発生前後に校舎内外の巡視を行い、危険回避につとめるとともに、危険箇所の早期発見・早期対応を図る。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
6 - (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答90%以上	①生徒が授業や家庭持ち帰りにおいて、タブレットを快適に使用できるよう適切に管理・運営する。 ②職員室の棚にデジタルカメラ、書画カメラや、DVDプレーヤー、CDラジカセ等を置き、管理簿を用いて紛失を防ぎ、定期的にメンテナンスをするなど、保管・整備を工夫する。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 生徒は、時と場に合ったあいさつをしている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答95%以上	①あいさつの大切さはもとより、あいさつの声が飛び交う明るい学校づくりの一端を担うという意識をもたせ、朝の会や帰りの会時、授業開始時・終了時、給食時のあいさつを徹底し、習慣化させる。 ②教職員が自ら率先してあいさつを行う。 ③学年委員会を中心としたあいさつ運動を、週1回程度実施する。 ④校内での来客や、校外の交通指導等でお世話になるPTAや地域の方々にもあいさつができるよう促す。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
	B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活している。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90%以上	①生徒の委員会活動での自主的な活動を、掲示物やテレビ放送等で知らせ、自分の役割を果たすことやルールを守ることの大切さを理解させる。 ②全教職員の共通理解・共通認識のもと、きまりやマナーを守らせる指導を行い、できない生徒の言動を見逃さない指導を適切に行うことにより、規範意識を高めていく。 ③生徒が主体となって、きまりやマナーを守って生活する啓発活動を行う。	B	【達成状況】 【次年度の方針】

小・中学校，地域学校共通，本校の特色・課題等	B 3 生徒は，家庭学習の習慣化を図っている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答 9 0 % 以上	①各学年最初のガイダンスにおいて，具体的な家庭学習の仕方を指導する。また，学年だよりで保護者にも見守りを依頼し，家庭の協力を得る。 ②学習委員会が中心となり，自主学習ノート提出の呼びかけやチェックを行う。また優秀な自主学習ノートの展示を行う。 ③自主学習ノートの確認を朝の時間を利用して学年体制で行う。未提出の生徒や取組が不十分な生徒には，学級担任が学習の仕方等の個別指導を行い，内容の充実を図る。 ④e ライブラリーの家庭学習での活用を図る。	A	【達成状況】 【次年度の方針】
	B 4 生徒は，緑化活動やクリーン活動に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答 8 0 % 以上	①緑化委員会による花壇の整備や水やり，中庭の緑化環境を充実させる。また，緑化委員の取組として校内掲示板で周知する。 ②学年ごとの校内クリーン活動を年 1 回と，とびやま城址跡清掃ボランティアを行い，事後の振り返りを行う。美化委員も T V 放送等を利用し，活動の振り返りを伝え，環境美化の意欲を高め，生徒がより主体的に活動が行えるように働きかける。 ③特色ある学校づくりの一端として，1 学年の総合的な学習の時間における草花栽培活動を充実させ，生徒の自主的・主体的活動を促すようにする。 ④各クラスで植物を育てる。昇降口や渡り廊下によとめて植物を並べ，日直管理にして全員が関わるようにする。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
	○B 5 生徒は，交通ルールやマナーを守って安全に登下校している。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 9 0 % 以上	①年度初め，新入生に向けた交通安全指導の徹底と交通安全教室を年 2 回実施し，交通安全への意識を高める。また，定期的に登校指導や日頃の交通マナーを確認するとともに，生徒の通学状況及び L R T 開通に伴う危険個所の把握に努める。 ②部活動終了後の日々の下校指導や，定期的な自転車点検を行うことで，安全な登下校ができるよう指導する。 ③交通安全委員が帰りの会で反射ベスト点検やヘルメットのあごひも点検を行い，安全に登下校できるよう呼びかけをさせる。また，「交通安全週間」を設けることで，改めて交通ルールやマナー，危険個所を振り返れるよう指導する。	A	【達成状況】 【次年度の方針】

【総合的な評価】（「小中一貫教育・地域学校園」に関する評価内容は○）

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度に向けて（「小中一貫教育・地域学校園」に関する評価内容は○）

